

(様式2)

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	山崎晃男 (やまさきてるお)	所属	大阪樟蔭女子大学																								
研究集会等名称	社団法人日本心理学会聴覚心理学研究会																										
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 8 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 35 名 (うち認定心理士 1 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>「音と感情」というテーマで、日本心理学会第73回大会内のワークショップとして平成21年に研究集会を行った。実施内容は以下のとおりである。</p> <p>テーマ：音と安全</p> <table><tr><td>企画者</td><td>大阪樟蔭女子大学</td><td>山崎 晃男</td></tr><tr><td>企画者</td><td>桐朋学園芸術短期大学</td><td>羽藤 律</td></tr><tr><td>司会者</td><td>大阪樟蔭女子大学</td><td>山崎 晃男</td></tr><tr><td>話題提供者</td><td>桐朋学園芸術短期大学</td><td>羽藤 律</td></tr><tr><td>話題提供者</td><td>産業技術総合研究所</td><td>水浪 田鶴、倉片 憲治</td></tr><tr><td>話題提供者</td><td>九州大学大学院</td><td>上田 麻理</td></tr><tr><td>話題提供者</td><td>帝塚山大学</td><td>蓮花 一己</td></tr><tr><td>話題提供者</td><td>日本ヒューマンファクター研究所</td><td>垣本 由紀子</td></tr></table> <p>内容要旨：</p> <p>我々の生存や生活の安寧において、音を検知し、それによって自己や他者の危険を予測することは重要である。本研究集会では、音の信号的側面とコミュニケーション手段としての側面から、音と安全との関係や事故防止に向けた音の役割について考察した。最初に羽藤が聴覚、信号検出理論、警告音の文化差等について解説し、水浪と倉片が家電製品の報知音の基本的属性と高齢者や障害者にも安全な設計指針について紹介した。上田は視覚障害者を対象とした音による移動支援の方法について、特に誘導鈴(サイン音)と騒音問題の両面から説明し、蓮花は自動車交通での音と安全について具体的事例を挙げながら検討した。垣本は航空機の様々なトラブルをヒューマンファクターの側面から分析し、コミュニケーションエラーの背景にある知覚的要因の関与の可能性について論議した。これらの話題提供の後、フロアを含めて活発な議論をおこなった。</p> <p>次年度には、「公共空間と音環境」をテーマに、社会調査による音環境研究の意義と問題点について検討する研究集会の開催を計画している。</p>			企画者	大阪樟蔭女子大学	山崎 晃男	企画者	桐朋学園芸術短期大学	羽藤 律	司会者	大阪樟蔭女子大学	山崎 晃男	話題提供者	桐朋学園芸術短期大学	羽藤 律	話題提供者	産業技術総合研究所	水浪 田鶴、倉片 憲治	話題提供者	九州大学大学院	上田 麻理	話題提供者	帝塚山大学	蓮花 一己	話題提供者	日本ヒューマンファクター研究所	垣本 由紀子
企画者	大阪樟蔭女子大学	山崎 晃男																									
企画者	桐朋学園芸術短期大学	羽藤 律																									
司会者	大阪樟蔭女子大学	山崎 晃男																									
話題提供者	桐朋学園芸術短期大学	羽藤 律																									
話題提供者	産業技術総合研究所	水浪 田鶴、倉片 憲治																									
話題提供者	九州大学大学院	上田 麻理																									
話題提供者	帝塚山大学	蓮花 一己																									
話題提供者	日本ヒューマンファクター研究所	垣本 由紀子																									